

みやこ へいじょうきょう 奈良の都（平城京）と大和川

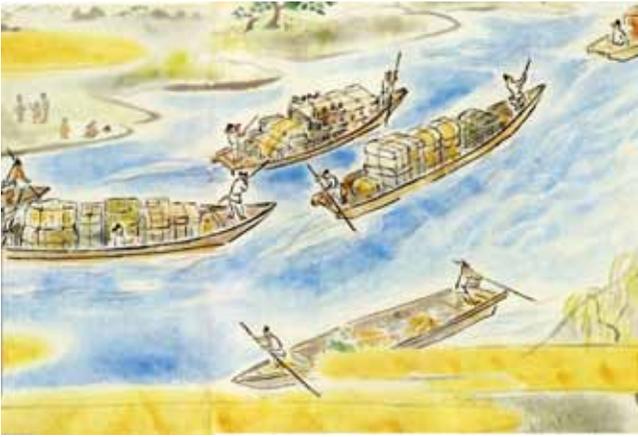


(奈良市・平城京復元模型と国立歴史民俗博物館・羅城門復元模型写真を合成)

みやこ けんせつ 都の建設もひっこしも川をとおって

ふじわらきょう だいきぼ しゅと
藤原京は、日本で初めての大規模な首都でした。中国の都
をまね、中国より立派な都をつくろうとしたようですが、16
年りっぱで終わりました。708年せんとに遷都がきまり、平城京北の丘陵きゅうりょう
で屋根瓦やねがわらを焼くなど、準備がすすめられました。藤原京の建
物も解体かいたいし、佐保川さほがわをとほって、船で運ばれました。

1万人以上が徒歩や馬でひっこし、大きな荷物を船で運ん
だそうぞうと想像されています。74年間続いた奈良時代の始まりです。



船でのひっこしと市のような想像図

(奈良文化財研究所監修「平城京再現」より)

川と生活

地方には^{たてあなじゆうきよ}竪穴住居があった時代ですが、貴族は^{いしやう}きらびやかな衣装をつけて^{ごてん}御殿に住んでいました。東と西の2つの^{いち}市に全国から集められた品物がならび、にぎわったようです。



水洗トイレのようす 想像図

^{いち}市に^{ぶっし}物資を運ぶために秋篠川・佐保川の流れをかえ、道路にそって^{ほりかわ}東西に堀川をつくりました。^{にやう}生ゴミやし尿が水路を流れ、伝染病などの流行のもとになったようです。

顔の^{えが}絵を描いた^{どき}土器や^{ひとがた}人形が川に流されていたことがわかっています。病気や^{ふこう}不幸などからのがれるためのおまじないだったようです。

♥ **考えよう・調べよう** ♥

Q 平城京で、川がはたした役わりを考えてみましょう。